

令和4年4月 8日

当院にご入院歴のある患者さん・ご家族様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、これまでの治療のカルテ情報から得られた研究データをまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に「情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2021年9月1日から2021年11月30日までに当院にご入院になられた方

【研究課題名】「6 ナショナルセンターでのポリファーマシーの現状把握を目的とした横断的研究」

【研究責任者】国立長寿医療研究センター薬剤部 溝神 文博

【研究の目的】6つのナショナルセンター（国立長寿医療研究センター、国立がん研究センター、国立循環器病研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター）の専門である高齢者、がん、循環器疾患、精神・神経疾患、小児疾患・産科領域、急性期疾患を有する患者のポリファーマシー（薬の数が多いことで起こるあらゆる不適切な問題）の実態調査を行いポリファーマシースクリーニングシートの開発につなげるのが目的です。特に薬剤の種類や数・各疾患・併存疾患について、ポリファーマシー問題（薬物有害事象、処方カスケード、服薬アドヒアランス、日本老年医学会 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015、開始を考慮すべき薬、同種同効薬の重複投与、腎機能低下、低栄養、薬物相互作用、処方意図不明の薬剤、患者の処方に対する要望など）を網羅的に調査し、全年齢・各疾患でどのような問題が多いか明らかにする。調査結果をもとに業務としてポリファーマシー問題の抽出として必要な項目を検討し、ポリファーマシースクリーニングシート開発につなげる予定です。

【利用する試料・診療情報】

（診療情報）電子カルテのデータを使用します。各施設の共通項目としては、入院時の年齢、性別、BMI、入院時の薬剤（種類、用量、服用方法）、退院時の薬剤（種

類、用量、服用方法) 併存疾患、腎機能(血清クレアチニン値)、栄養状態(血清アルブミン値)、入院時の血圧、副作用歴、アレルギー歴、一般用医薬品・サプリメント、お薬手帳の活用、薬剤管理方法、処方意図の理解、調剤薬局、処方医療機関数、薬剤起因性老年症候群評価(睡眠、うつ、物忘れ、食欲低下、体重減少、ふらつき・めまい、転倒、排尿障害、排便障害、口腔乾燥、嚥下機能低下、処方カスケード)、同種同効薬数、薬物相互作用の該当数、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015「特に慎重な投与を要する薬物」・「開始を考慮すべき薬」に該当する薬剤の該当数、クロルプロマジン換算値、ジアゼパム換算値、Anticholinergic risk scale のデータを使用いたします。

当センターの個別調査項目としては、左室駆出率、心係数、平均肺動脈圧、6分間歩行検査のデータを使用します。

【研究期間】 研究許可日後より2023年3月31日まで(予定)

【外部機関への研究データの提供】

上記の診療情報を、次の研究機関に提供して、共同で研究を進めます。

・ 共同研究機関及び研究責任者

国立長寿医療研究センター薬剤部 溝神 文博

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 薬剤部 生駒 歌織

電話 06-6170-1070(代表) (内線 40133)